

令和7年3月3日

## 令和6年度 とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	台東区立田原幼稚園
所在地	台東区雷門1-5-17

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

表現

<テーマの設定理由>

日々幼児は様々な方法で表現している。内面を出すことに抵抗を感じる幼児も段階を経て、自分なりの表現をしていく姿が見られる。心が動く機会をつくり、それをキャッチして何かしらの方法で表現することの過程が探求につながると考える。

### 2. 活動スケジュール

音楽会を鑑賞する  
自分たちの楽しんでいることを、学級で1つのストーリーにする  
必要な物を作る  
人に見てもらい 発表する場を設ける

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

声楽家のワークショップを通して、何かをイメージして歌うことや、表現することを実際に見る機会にする。  
日頃楽しんでいる遊びを題材として取り上げ、学級みんなで表現遊びをする。場面につながりそうな絵本や図鑑、インターネットから図を取り出し、自分たちで具体的にわかって選んだり参考にしたりできるようにする。「もっとこうしたい」「こうなりたい」という思いやイメージを聞き、それに近いと思う素材、色をつける用具、等、自分たちで扱える様々な方法から自分たちで選べるように設定する。  
劇に必要な音響の音探しも試せるよう、楽器だけでなく、身近な素材も選べるように設定しておく。

#### 4. 探究活動の実績

##### <活動の内容>

- ・声楽家の歌っている姿を見て、衣装や動き、歌い方、表情などよく観察し、取り入れていく。
- ・遊びの中で出てきたイメージを取り入れながら、学級全体で表現遊びをいくつも楽しむ。
- ・個々になりたいもの、やりたい場面をイメージしたものを、製作していく。
- ・自分たちが表現したり歌ったりしている場面を動画で撮影したものをプロジェクターで学級全体で見る。客観的に見合い、友達のよさを発見して伝えたり、より自分たちのイメージに合うようにするために試行錯誤したりする。

##### <活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

- ・友達と劇の場面に必要な道具や衣装を話し合い、「ドアがあるなら鍵が必要だね」などストーリーに沿って考えたり、自分の考えを絵や文字に表して友達と共有したりしていた。実際に動いてみる中で新たに必要なものに気づき、作り進めていく姿も見られた。
- ・友達の表現を実際に見たり、自分の表現をビデオで鑑賞したりする機会を教師が作り、より本物らしい劇になるにはどうしたら良いかを問いかけた。「捕まっているときに笑っていると困っているように見えないね」「前を向いて話さないと聞こえにくいね」「音があるともっとおもしろくなりそう」とお互いに気づいたことを伝え合い、次に劇に取り組んだ時には話し合ったことを意識しながら表現するようになった。
- ・5年生や下の学年の幼児、保護者の方に劇を見てもらい「おもしろかった」と感想をもらうことで満足感を得られた。

##### <活動の様子>



## 5. 振り返り

(振り返りによって得た保育者の気づき)

- ・自分たちが考えた劇のお話だったからこそ、「こうしたい」「この役がやりたい」「必要な道具をこだわって作りたい」など主体的な姿を引き出すことができた。
- ・劇の場面ごとにグループを作ったことで、他のグループの友達に表現を見てもらい、認めてもらったりアドバイスをもらったりすることがとてもよかった。また、ビデオを客観的に見たりすることで、自分の表現を気づききっかけとなり、更に劇に意欲的に取り組めた。

以上